

最終評価シート

最終評価（表紙）

宇治市歴史的風致維持向上計画（平成24年3月5日認定） 最終評価（平成24年度～令和4年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 宇治の歴史・文化を分かりやすく情報発信する	3
II 伝統文化・伝統行事の継承と振興を図る	4
III 多様な歴史的遺産の保存・活用を推進する	5
IV 宇治らしい景観の保全・修景を図る	6
V 歴史のまちにふさわしい観光振興を図る	7
■ 波及効果別シート（様式3）	
i まちづくり活動の活性化	8
ii 宇治茶のブランド価値の向上	9
iii 探究的な学習の充実	10
iv 国・京都府との連携	11
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 情報発信・観光交流施設整備事業	12
B 史跡整備事業	13
C 重要文化的景観保存事業	14
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 遊覧と参詣 宇治川河畔の歴史的風致	15
2 茶どころ宇治の歴史的風致	16
3 宇治に伝わる祭礼の歴史的風致	17
■ 庁内体制シート（様式6）	18
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	19
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	21

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～R4年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	遊覧と参詣 宇治川河畔の歴史的風致	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	
2	茶どころ宇治の歴史的風致	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ	
3	宇治に伝わる祭礼の歴史的風致	Ⅱ・Ⅳ	
4			
5			
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
Ⅰ	宇治の歴史・文化を分かりやすく情報発信する		
Ⅱ	伝統文化・伝統行事の継承と振興を図る		
Ⅲ	多様な歴史的遺産の保存・活用を推進する		
Ⅳ	宇治らしい景観の保全・修景を図る		
Ⅴ	歴史のまちにふさわしい観光振興を図る		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	まちづくり活動の活性化		
ii	宇治茶のブランド価値の向上		
iii	探究的な学習の充実		
iv	国・京都府との連携		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	情報発信・観光交流施設整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	史跡整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
C	重要文化的景観保存事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～R4年
方針	I 宇治の歴史・文化を分かりやすく情報発信する	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】本市の歴史・文化に関する情報発信については、宇治茶の歴史や文化を総合的に伝えることや、宇治の歴史・文化に関する背景やストーリーを分かりやすく発信することが現状ではまだ十分ではない。

【方針】歴史の重層性や継承される伝統文化を、総合的に広く分かりやすく情報発信する必要があり、近年の調査結果を反映し内容充実を図る。特に、宇治茶の歴史や文化、価値を伝えることで、宇治茶に対する市民意識の向上に努める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	情報発信・観光交流施設整備事業	歴史公園整備 整備完了・R3開園 来館者数(74,133人)	あり	H27～ R2
2	宇治茶普及啓発事業	宇治茶まつり参加者 18,000人(H24)⇒41,500人(R1) ※R2以降、コロナ禍の影響で一般参加者受付ず	あり	H23～
3	宇治川鵜飼助成事業	平均乗船者(日) 76人(H24)⇒38人(R4)※コロナ禍の影響	あり	H23～
4	宇治十帖スタンプラリー開催	踏破者 約17,600人(H24)⇒約5,500人(R4) ※R3以降デジタルスタンプラリーで実施	あり	H23～
5	歴史・文化啓発事業	フォーラム・出前講座開催 19回(H24-R4)	あり	H23～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●情報発信・観光交流施設整備事業
「宇治の歴史・文化・観光に関する情報発信」、「宇治茶に関する魅力発信」の拠点となる歴史公園を開園し、イベントや体験プログラムの実施により、情報発信をすることができた。

●宇治茶普及啓発事業
「市民茶摘みのつどい」では、新芽を手で摘む手摘みを実際に体験してもらい、宇治茶に対する市民意識の向上を図ることができた。また「宇治茶まつり」、「市民素人茶香服大会」の実施により、市民や来訪者に宇治茶への親しみや理解を深めることに寄与した。

●歴史・文化啓発事業
重要文化的景観フォーラムや出前講座を開催し、郷土の歴史と身近な文化財への理解を促すとともに、地域の伝統文化の継承への意識を高めることができた。

歴史公園の開園当日の様子

歴史公園内のミュージアム

④ 自己評価

様々なイベント等を通じて、宇治市の歴史・文化や宇治茶に関する情報発信を行うことができた。

また、令和3年度に実施した総合計画策定のためのアンケート調査では歴史・文化や宇治茶に関する項目が重要度並びに満足度が高い水準に位置し、平成21年度に実施した同様の調査よりも向上している。

以上のことから、情報発信の成果が一定程度上がっていると考え、引き続き高い水準を維持するため情報発信に努めていく。

⑤ 今後の対応

- 令和3年3月歴史公園の整備が完了し、同年8月に開園し、開園後は民間事業者との連携による幅広い情報発信を進めている。継続して情報発信を行うとともに、観光拠点としての役割を果たしていく。
- 今後も宇治茶と歴史・文化への理解を促し、市民意識の向上に努める。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～R4年
方針	Ⅱ 伝統文化・伝統行事の継承と振興を図る	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】古くは茶の産地として、茶園景観が市街地や近郊集落に広がっていたが、都市の発展とともに茶園が減少し、近年は横ばいであるものの、茶どころとしての茶業の振興とともに、本質の技術伝承が課題である。また、伝統行事の担い手の高齢化や生活様式の変化、娯楽の多様化などにより、伝統行事への参加者が減少し、簡素化や存続困難な状況が見受けられる。

【方針】宇治茶発祥の地としての歴史と伝統文化の継承を図り、宇治茶ブランドの向上に努めることで、茶業の振興を図る。また、地域の伝統行事は、地域コミュニティを維持する重要な役割を果たしており、住民の関心と意識を高めるよう周知を図るとともに、市民主体での学習や取組を推奨し、担い手育成に努める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	宇治茶園支援事業	伝統技術継承実施 188件(H24-R4) 手摘み茶推進実施 357件(H24-R4)	あり	H23～
2	宇治茶品質向上事業	茶品評会 受賞実績521点(H24-R4)	あり	H23～
3	市営茶室対鳳庵活用事業	入席者 11,306人(H23)⇒6,077人(R4)	あり	H23～
4	文化財指定推進事業	無形民俗文化財等補助 32件(R4)	なし	S50～
5	日本遺産認定の取組	「日本茶800年の歴史散歩」 日本遺産認定(H27)	なし	H27～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

- 宇治茶園支援事業
宇治茶の伝統製法である「本質」による生産の支援や、茶摘み時期に必要な「お茶摘みさん」の確保のための支援を行うことで、本質栽培の保存や技術継承及び手摘み茶の推進につながった。
- 宇治茶品質向上事業
茶品評会への出品を推奨することで、生産者の生産意欲を高めるとともに、宇治茶の伝統製法の継承につながった。
- 市営茶室対鳳庵活用事業
宇治茶及び茶道の普及並びに観光の振興を図るために、市営茶室「対鳳庵」を設置しており、宇治茶を提供することにより、宇治茶の普及及び観光の振興を図ることができた。
- 文化財指定推進事業
宇治市指定無形民俗文化財の大幣神事の運営に対する補助を行うことで、伝統行事の保存・継承に寄与した。
- 「お茶の京都」ターゲットイヤーに係るイベントなどでのPR活動の実施
関係する市町村で実施されるお茶の文化・魅力を発信するイベントへの参加や、東京都渋谷、銀座、埼玉県大宮、岐阜県大垣などの市外で宇治茶の積極的なPRを実施した。
- 全国・関西茶品評会への支援
宇治茶の品質の高さを維持するため、生産者が品評会に出品することに対し支援するとともに、平成25年、令和4年には全国茶品評会、平成28年に関西茶品評会の開催市として、式典、消費拡大イベントを開催して、宇治茶のブランド価値向上の取組を実施した。

④ 自己評価

各茶生産支援事業の実施により、生産の技術伝承や生産者の生産意欲の向上につながった。また、日本遺産の認定やお茶の京都に係る取組を皮切りとした宇治茶に関する各種イベントの実施により、ブランド価値を高めることができた。

⑤ 今後の対応

引き続き宇治茶の伝統的製法の継承に努めるとともに、更なる宇治茶ブランドの確立に向け、生産農家の後継者育成を図ることをはじめ、様々な取組を推進していく。



宇治市茶品評会の様子



市営茶室対鳳庵

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～R4年
方針	Ⅲ 多様な歴史的遺産の保存・活用を推進する	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】本市には極めて価値の高い文化財と併せて、身近に継承されている歴史・文化遺産が多く存在するが、認知度があまり高くないものが多い。また、古民家や宇治の個性を表す建造物の調査や検証が不足している。

【方針】未指定の歴史的・文化的価値を有するものは、調査・検証により積極的に文化財指定を行い、既存の指定文化財とともに保存と活用を推進する。また市民による身近な歴史・文化遺産の掘り起こしと活用のための制度の検討を行い、文化財に対する再認識と再構築を図り、文化財を支える社会的環境づくりに取り組む。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	宇治上神社拝殿ほか屋根葺替修理事業	檜皮葺屋根等の修理完了（～H26）	あり	H24～H26
2	史跡整備事業	遺構再現パネルの製作・設置等	あり	H25～R2
3	空き町家の活用検討調査	空き家対策の組織体制を確立（H30）	あり	H27～
4	文化財見学会	一般公開 年2回（H24～R4） 文化財見学会 年1回（H24～R4）	あり	H23～
5	文化財の指定	重要文化財：松殿山荘（H29）、史跡：宇治古墳群（H30）、名勝：宇治山（H30）	なし	H29～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●宇治上神社拝殿ほか屋根葺替修理事業
宇治上神社拝殿ほか屋根の修理等を実施したことにより、文化財の保存と価値の継承を図ることができた。

●史跡整備事業
史跡宇治川太閤堤跡の再現整備を行うとともに、遺構のスケール感を体感することを目的とした展望デッキの設置を行った。また、太閤堤フォーラム等により、史跡の歴史的価値・史跡整備の必要性等を普及することができた。

●空き町家の活用検討調査
伝統的木造家屋等を保存・活用するために所有者調査を行い、現状把握に努めた。また、令和元～2年度には空き家対策の相談窓口を創設し、再生・利活用コンペを実施した。

●文化財見学会
文化財の普及・啓発のため、庵寺山古墳の一般公開や小中学生の文化財見学会を実施し、宇治の歴史や文化財への理解を促すことができた。

宇治上神社本殿の修理 H26.12

庵寺山古墳の一般公開の様子 H29.6

④ 自己評価

史跡整備や文化財見学会等を通じて、史跡の歴史的価値を普及するとともに、文化財の普及・啓発を図ることができた。

また、松殿山荘、宇治古墳群、宇治山について、それぞれ重要文化財、史跡、名勝の指定を受け、重要な建造物や宇治橋周辺の景観を保全することができた。

⑤ 今後の対応

引き続き、文化財等の保存・活用の取り組みを進めるとともに、空き町家の活用検討調査では、今後どのような町家を積極的な活用物件として取り扱うべきかについて、調査・検討を行っていく。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～R4年
方針	Ⅳ 宇治らしい景観の保全・修景を図る	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】近年、生活様式の変化などによる歴史的建造物の建替えが進み、マンション建設による急激な景観の変化、現代的建築物による周辺景観との不調和、駐車場化によるまちなみの連続性の喪失などが起きている。

【方針】宇治らしい景観の保全と形成のため、景観計画の策定、修景助成、屋外広告物助成など様々な景観政策に取り組んでいる。これにより、市民意識の向上や景観保全、景観誘導を促しており、今後も継続してこの取組を推進する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	重要文化的景観保存事業	建造物の修理・修景：19件（H24～R4） 災害復旧：9件（H25） 5件（H30）	あり	H24～
2	無電柱化事業	宇治橋線、JR宇治駅前線（H24） 宇治228号線（H30～R3）	あり	H24～R3
3	建物修景助成事業	28件に補助（H22～R4）	あり	H22～
4	屋外広告物助成事業	7件に補助（H22～R4）	あり	H22～
5	文化的景観整備計画策定調査	文化的景観整備計画策定（H27） 重要な構成要素選定：4件（R2）	あり	～R3

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●重要文化的景観保存事業
「宇治の文化的景観」の重要な構成要素である建造物の修理・修景を実施したことで、市民の文化的景観への理解度を高めることができた。
宇治の近代化を象徴する建物である「旧丸五百貨店」では、活用上の利便性に配慮した修理・修景を実施した。

また、文化的景観の保存に関する必要な事項を検討する宇治市文化的景観検討委員会では、府立宇治公園やJRの複線化に伴う架橋など、宇治川の景観と調和させるために提言を行い、歴史的風致の継承に寄与することができた。

●建物修景助成事業・屋外広告物助成事業
宇治市景観計画重点区域内の建築物や工作物、屋外広告物の整備に対する景観形成助成を行うことで、良好な景観の形成を図ることができた。

●無電柱化事業
宇治川周辺の回遊性につながる散策路を無電柱化できたことにより、伝統的な沿道景観との調和や道路景観の改善を図ることができた。



④ 自己評価

文化的景観に関する建造物の修理や各種の景観助成の実施により、良好な景観の形成が図られるとともに、住民の景観保全に対する意識の向上を図ることができた。

⑤ 今後の対応

「宇治の文化的景観」整備計画に基づき、宇治の歴史的特色を活かした修景整備や、茶業関連の家屋等の整備活用を推進するとともに、沿道景観と一体をなす祭礼や民俗行事などの無形的要素に関する支援策や情報発信なども含めた、宇治らしい景観づくりを行っていく。

地域住民の景観に対する意識を高め、良好な景観の形成への住民の主体的な取り組みを促進していく。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～R4年
方針	V 歴史のまちにふさわしい観光振興を図る	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】本市の観光客の平均滞在時間は約3時間と短い。また、観光シーズンには宇治橋を中心に渋滞が発生し、狭隘な道路に自動車が入ることや、近年の豪雨により道路が冠水するなど、歩行者が安心して散策しづらい環境であるとともに、大規模駐車場が少ないため、一極集中化する駐車場が問題視されている。加えて、観光シーズンの無秩序な駐輪や、複数設置されている案内誘導標識が、円滑な歩行者の往来や景観を阻害する状況もみられる。

【方針】本市の歴史的風致の維持向上には来訪者の賑わいは不可欠であり、今後も宇治に人が訪れ続けるよう、歴史・文化遺産を活かした新たな観光振興策を検討し、まち全体を楽しむ参加体験型の観光振興を図る。また観光シーズンの渋滞緩和や一極集中する駐車場不足の対応のため、観光駐車場対策の検討と併せて、公共交通の利用促進に取り組む。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歩道整備事業	踏切確認拡幅整備 2箇所	あり	H21～R4
2	歩行空間整備事業	フットライト整備、歩道景観舗装等 L=328m	あり	H24～R2
3	観光施設周辺浸水対策事業	塔ノ島周辺地域 2箇所	あり	H27～R2
4	観光サイン等整備事業	工事実施数 128基(H29～R4)	あり	H29～R4
5	観光交通対策検討調査	旅行時間調査、現地誘導、情報発信	あり	H25～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●歩道整備事業・歩行空間整備事業
歴史公園と宇治川周辺の歴史・文化資源を結ぶ歩道・道路を整備することで、歴史に触れながら安心して散策できる快適な歩行空間を確保できた。

●観光施設周辺浸水対策事業
塔ノ島周辺地域において、雨水排水機場の排水能力向上のための工事を実施した。併せて観光施設及び周辺道路の浸水を防止するため、排水施設の改良工事を実施したことで、宇治川河畔の歩行者が安心して散策できる環境の構築ができた。

●観光サイン等整備事業
宇治市観光案内サイン整備ガイドラインに基づき、宇治橋周辺地域の観光案内サインの多言語化等の整備を行い、国内外からの観光客が歴史・文化資源や歴史的まちなみ等を回遊しやすい環境の構築ができた。

●観光交通対策検討調査
周辺駐車場の情報発信や観光シーズンの車両誘導等を実施し、駐車場の一極集中による渋滞緩和に努めた。

市道宇治233号線

観光サイン

④ 自己評価

歩道整備、歩行空間整備や浸水対策の実施により、歩行者が安心して散策できる環境の構築ができた。

また、観光案内サインの整備により、歴史・文化資源や歴史的まちなみの回遊性の向上を図ることができた。

⑤ 今後の対応

引き続き、観光サイン等の整備を進めるなど、国内外からの観光客の受け入れ環境の充実を図る。また、新たな資源を検討するなど、市全体の魅力的な資源を活かして、さらなる誘客を図る。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～R4年
効果	i まちづくり活動の活性化		

① 効果の概要
歴史的なまちづくりの意識の向上により、まちづくり協議会を通じた住民主体によるまちづくりや各種イベントに対し自主的な取り組みがみられた。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	宇治市第5次総合計画	あり	H23～R3

市民主体による取り組みを支援するため、本市で認定を行った地区まちづくり協議会に対し、出前講座の実施やまちづくり専門家の派遣、活動費助成などを行っている。
また、歴史的風致維持向上計画に沿った各種取り組みに対し、積極的に各種団体が取組んだ。

③ 効果発現の経緯と成果
歴史的風致維持向上計画の策定や計画に基づく各種事業の実施により、歴史的な沿道景観の保全や地域の伝統文化の継承への意識を高めることにつながっており、これらの取り組みは、歴史的なまちづくりに対する意識の高まりに寄与している。

- 白川区まちづくり協議会
平成20年度に初の地区まちづくり協議会として認定し、平成28年度には「白川区地区まちづくり計画」が策定された。地域の伝統行事を次世代に継承する取り組みなど行われている。
- 平等院表参道まちづくり協議会
平成28年度に地区まちづくり協議会として認定を行った。平成30年度から、勉強会「みんなの茶話会」を実施するなど、協議会や地域住民が主体となって、まちづくりについての話し合いが活発化している。
- 宇治茶まつり
宇治地区の茶業者だけでなく、各団体の協力を得る中で10月の第1日曜日に実施されている。近年は、京都文教大学の学生により、宇治茶スタンプラリーの実施やお茶壺道中参加など連携が広がっている。
- 市営茶室対鳳庵
市内茶道連盟の協力により、各種茶の振る舞いが行われている。宇治市観光振興計画に沿って、体験プログラムの実施等が行われている。

④ 自己評価
地域住民の意識の向上により、住民によるまちづくり計画の策定やまちづくり協議会での勉強会が行われるなど、住民主体によるまちづくり活動が活発になるとともに、重点区域内の商店街が主体となったイベントの開催や、重点区域内での開催イベントに産学各種団体等が積極的に参加するなど、シビックプライドの醸成を図ることができた。

⑤ 今後の対応
地域住民が主体となるまちづくりを促進するため、引き続き、歴史的風致維持向上計画の各種事業と連携を図り、地域住民自らが歴史的風致の担い手であるという認識を高め、宇治の個性や魅力を継承するまちづくりの活性化が図れるよう、地域住民や協議会に対して各種支援を実施していく。



白川の景観



虫干し祭りの様子



「みんなの茶話会」の様子

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～R4年																
効果	ii 宇治茶のブランド価値の向上																		
① 効果の概要 「宇治茶の普及とおもてなしの心の醸成に関する条例」制定に伴う各種事業の推進により、市内産宇治茶のブランド価値の向上に繋がった。																			
② 関連する取り組み・計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>他の計画・制度</th><th>連携の位置づけ</th><th>年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>宇治市第5次総合計画</td><td>あり</td><td>H23～R3</td></tr> <tr> <td>2</td><td>宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略</td><td>あり</td><td>H27～R6</td></tr> <tr> <td>3</td><td>宇治市観光振興計画</td><td>あり</td><td>H25～R4</td></tr> </tbody> </table>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	宇治市第5次総合計画	あり	H23～R3	2	宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略	あり	H27～R6	3	宇治市観光振興計画	あり	H25～R4
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																
1	宇治市第5次総合計画	あり	H23～R3																
2	宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略	あり	H27～R6																
3	宇治市観光振興計画	あり	H25～R4																
数ある日本茶の中でも高級茶の代名詞とも言える宇治茶は、本市の重要な産業になっている。しかし、近年の生活様式の多様化や飲料の種類の増加などにより、抹茶はもとより急須でお茶をいれる習慣が薄れ、茶を振る舞うおもてなしの機会が減少している。 これらを背景に、市民、茶業者及び市の役割等を明らかにし、宇治茶の普及や宇治茶によるおもてなしの心を醸成することを目的として、平成26年度に「宇治茶の普及とおもてなしの心の醸成に関する条例」を制定した。																			
③ 効果発現の経緯と成果 ●市内産宇治茶ブランド化推進事業 宇治茶商工業協会と共同開発したオリジナル茶「碾玉」の積極的な販売支援・PRを実施した。また、「宇治碾茶」の商標登録の申請に係る支援を実施した。 ●宇治茶おもてなし推進事業 宇治市を含む山城地域をターゲットとするお茶を中心とした地域振興、観光振興に関するプロジェクトである「お茶の京都」構想に係る各種イベントに参加し、市内産宇治茶の普及啓発を図った。 ●市民茶摘みのつどい・宇治茶巡りガイドツアー 茶摘みを体験する「市民茶摘みのつどい」や、市民によるボランティアガイドの案内により、宇治茶に関する施設見学等を行うガイドツアーを実施した。 ●日本遺産の認定 「日本茶800年の歴史散歩」が日本遺産に認定された。 ●重要文化的景観保存活用事業 重要文化的景観「宇治の文化的景観」の重要な構成要素である茶業に関する家屋や茶園等について修理を実施したことにより、ブランド価値を高めることができた。 ●全国・関西茶品評会への支援 宇治茶の品質の高さを維持するため、生産者が品評会に出品することに対し支援するとともに、平成25年、令和4年には全国茶品評会、平成28年に関西茶品評会の開催市として、式典、消費拡大イベントを開催して、宇治茶のブランド価値向上の取組みを実施した。  市民茶摘みのつどいの様子 宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、宇治茶に関する取組みの効果検証を行うため、観光動向調査における「宇治茶を目的に宇治へ来る割合」を指標としており、平成23年度に15%であったものが、平成28年度には24.1%に増加しており、この間の取組により一定の効果が調査結果にも現れている。  宇治茶を目的に宇治へ来る割合 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H23年度（基準値）</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>H28年度</td> <td>24.1%</td> </tr> <tr> <td>H34年度（目標値）</td> <td>30%</td> </tr> </tbody> </table> 宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略の重要業績評価指標 （観光動向調査で宇治茶を目的に宇治へ来る割合等を把握）				年度	割合	H23年度（基準値）	15%	H28年度	24.1%	H34年度（目標値）	30%								
年度	割合																		
H23年度（基準値）	15%																		
H28年度	24.1%																		
H34年度（目標値）	30%																		
④ 自己評価 「宇治茶の普及とおもてなしの心の醸成に関する条例」に基づくPR事業の取組み等により、観光客が「宇治茶を目的に宇治へ来る割合」は増加してきていることから、宇治茶のブランド価値の向上につながっている。																			
⑤ 今後の対応 宇治茶ブランド力の強化による市場価値の向上と観光誘客による産業育成を図るため、事業効果を検証しながら、国内外への宇治茶のPR強化などを進め、引き続き、宇治茶を活用した様々な事業を実施していく。 「お茶の京都」構想に関する取組みを、京都府をはじめとした関係団体と連携を図りながら、広域的な取組もあわせて引き続き推進していく必要がある。																			

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～R4年			
効果	iii 探究的な学習の充実					
① 効果の概要						
歴史的風致維持向上計画の策定により、宇治の特性である宇治の歴史や宇治茶を活かした歴史まちづくりの機運が高まるなかで、小中一貫教育における独自の学習項目の設置を通じて、宇治のことを知ることで、主体的・創造的・協働的な探究学習の充実を図ることができた。						
② 関連する取り組み・計画						
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度			
1	宇治市第5次総合計画	あり	H23～R3			
2	宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略	あり	H27～H31			
3	宇治市教育振興基本計画	あり	H26～R3			
本市では、小中一貫教育の特色のひとつとして、総合的な学習の時間を「宇治学」と称し推進している。この「宇治学」推進への支援を目的に、全小中学校で「宇治で学ぶ、宇治を学ぶ、宇治のために学ぶ」のコンセプトのもと、共通して学ぶ内容を各学年（小学校3年生～中学校3年生）の重点単元として再構築し、具体化するとともに、各小中学校で実施する「宇治学」の探究学習が一層充実したものとなるよう、「宇治学」副読本を作成した。						
③ 効果発現の経緯と成果						
●「宇治学」推進事業						
【「宇治学」副読本の作成】						
平成29年度より小学校3・6年生、平成30年度より小学校3・4・6年生、中学校1年生、令和元年度以降は小学校3～6年生、中学校1～3年生で副読本を活用した授業を実施している。						
【「抹茶体験授業」への支援】						
平成27年度に「宇治茶スタートセット」として、抹茶碗・抹茶等を各小学校に配付した。小学校3年生の「宇治学」における「抹茶体験授業」には、宇治市茶生産組合の協力により、宇治市内産の抹茶を年2回配付し、自身で茶を点て、味わうことで、特産品宇治茶について、嗅覚や味覚など通常の授業で体験できない感覚で学べることができた。						
●宇治の魅力体験支援事業						
平成28年度より3年間限定で、小学校6年生に対し、宇治の魅力を知り体感することで宇治への愛着を深めるため、世界遺産の平等院、宇治上神社などの見学を実施することで、宇治市内にある貴重な文化遺産について肌に感じることができ、通常の授業以上に知識を深めることができた。						
これらの事業を通じて、本市の子どもたちが「ふるさと宇治」の魅力を知り、体感することで宇治への愛着が深まるとともに、主体的・創造的・協働的な探究学習の充実を図ることができた。						
④ 自己評価						
歴史、文化、建造物、祭礼、お茶など宇治の歴史的風致が副読本に全てが網羅されており、体験授業も取り入れていることにより、宇治への愛着、誇りを持ってもらえ、また、学びに必要な自分で考え、動き、提案するといった内容も含んだ授業を取り入れていることから、次世代に継承できる人材育成の取組みができた。						
⑤ 今後の対応						
持続可能な「ふるさと宇治」の未来を担う子どもたちが、本市の現状や課題、可能性を考え、「宇治学」副読本のゴールである市への提案ができるような取組みの支援を推進する。						
本市の子どもたちが宇治の魅力をさらに知るための契機となるよう、市内小学校3年生に対する宇治茶を使用した授業の時間数について、目標とする授業時間の確保を図っていく。						
各学年のテーマに沿った体験学習等の充実のため、関係機関と連携を図り、取組を進めていく。						



「宇治学」副読本

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～R4年			
効果	iv 国・京都府との連携					
① 効果の概要 歴史的風致維持向上計画の策定により、国・京都府と連携して実施する事業においても、宇治の歴史・文化を活かしたまちづくりの推進が可能となっている。						
② 関連する取り組み・計画						
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度			
1	宇治市第5次総合計画	あり	H23～R3			
2	宇治公園再生計画	あり	H25～			
3	宇治市天ヶ瀬ダムかわまちづくり計画	あり	H30～			
③ 効果発現の経緯と成果 ●宇治公園の整備 宇治川塔ノ島や世界遺産である平等院、宇治上神社及びその周辺一帯は、国の重要文化的景観にも選定されるなど、景観上重要な地域である。 宇治公園では、市民アンケート、塔ノ島地区景観構造検討会、宇治川サクラプロジェクト市民ワークショップなどの意見をもとに、国、京都府、宇治市において「宇治公園再生計画」を取りまとめ、現在は本計画に基づき、整備が進められている。						
●「宇治市天ヶ瀬ダムかわまちづくり計画」の認定 宇治川の周辺は自然景観等の地域資源に恵まれており、これらを活用して宇治川の鵜飼、宇治茶まつり等の各種の催しが開かれている。宇治橋の上流にある天ヶ瀬ダムでは、地域資源として活用する取り組みのひとつとして、平成30年度に見学ツアーが実施され、4日間で133名の参加があった。 平成31年3月には、宇治の歴史的なまちなみと天ヶ瀬ダムを観光基盤とした体験型周遊観光の推進を目的とした計画が国の登録を受け、今後は本計画に基づき、天ヶ瀬ダム周辺の整備を行うとともに、国、京都府、宇治市、その他関係機関と連携を行い、水辺と周辺地域の魅力向上に向けた各種の取り組みを実施していく。						
●日本遺産、世界遺産登録に向けた取り組み 日本遺産「日本茶800年の歴史散歩」や「宇治茶の文化的景観」の世界遺産登録に向けた取り組みなど、京都府と連携し取り組んだ。						
 宇治公園の整備後イメージ						
 天ヶ瀬ダム見学ツアーの様子						
④ 自己評価 京都府立宇治公園の改修や白虹橋架け替え工事など、国・府事業においても本市の景観政策に配慮した整備が行われ、宇治の歴史・文化を活かしたまちづくりに寄与した。						
⑤ 今後の対応 観光分野など、国・府の施設を活用したインフラツーリズムの実施や、宇治茶の効能についての研究なども踏まえる形で、引き続き国・府と連携を行い、宇治の歴史・文化を活かしたまちづくりの推進を行う。						

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～R4年
取り組み	A 情報発信・観光交流施設整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

情報発信・観光交流施設整備事業は、史跡宇治川太閤堤跡の隣接地において、宇治の歴史や文化、宇治茶の魅力を情報発信する施設として整備する。本事業は、民間活力導入の推進を図るため、本市で初めてPFI方式を採用して事業実施を行い、令和2年11月に情報発信・観光交流施設整備が完了し、令和3年8月に開園した。

【主な取り組み内容】

- ・H27年度 実施方針の策定
特定事業の選定・評価
- ・H28年度 計画の見直し
- ・H29年度 実施方針（変更）の策定
特定事業の選定・評価
募集要項等の公表
事業者の募集
- ・H30年度 事業者の選定・公表
事業契約の締結
設計業務
- ・H31年度 設計業務・建設業務
- ・R2年度 施設整備完了
- ・R3年度 開園



歴史公園鳥瞰図



歴史公園開園式の様子

② 自己評価

本事業は本市で初めてのPFI方式による事業の実施であり、平成27年度から国が示す「PFI事業のプロセス」に従って取組みを進めるとともに、国庫補助金を活用して用地取得を行ってきた。平成30年度には事業者と契約締結を行い、事業者とともに施設整備に取り組み、令和3年8月に開園した。今後は、情報発信の拠点として施設を活用し、宇治の歴史・文化、宇治茶の情報発信に努めていきたい。

外部有識者名	嵯峨美術大学名誉教授 坂上英彦（都市及び地方計画、国際観光、まちづくり、宇治市観光振興計画推進委員会、宇治市観光振興計画策定委員会）
外部評価実施日	令和4年10月19日

③ 有識者コメント

茶園の景観と一体となった太閤堤を復元するとともに宇治の歴史・文化や宇治茶をテーマとした情報発信、観光交流拠点が、PFI手法により実現できている。しかし、開園時に新型コロナウイルス感染症の影響を受けて利用が制限されるなど、当初の目標が達成できておらず、早期の回復が期待される。例えば、宇治茶体験ができる修学旅行の誘致、車利用者に対する観光情報案内所「i」の機能の明確化などの検討が望まれる。

④ 今後の対応

令和3年8月に開園。今後は宇治の歴史・文化、宇治茶の情報発信の拠点として、民間事業者との様々な連携を構築し観光周遊を図る。

事業者からの提案を基に、庁内関係部署をはじめ、関係機関・関係団体等を調整し、満足度の高い情報発信施設としていく。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～R4年
取り組み	B 史跡整備事業	種別	歴史的風致維持 向上施設

① 取り組み概要

史跡整備事業は、史跡宇治川太閤堤跡を活用した公園を整備することで、築堤時と埋没時の宇治川太閤堤を再現し、太閤堤の果たした役割と歴史の重層性を表現することとしている。築堤時の様子を再現するゾーンは遺構再現パネルを用いて整備し、埋没時の様子を再現するゾーンは修景茶園として整備した。

【主な取り組み内容】

- ・H25年度 遺構再現方法の確認、レンガ窯跡発掘調査
- ・H26年度 遺構再現パネル製作(133㎡)、発掘調査
現地説明会（約100名参加）
- ・H27年度 遺構再現パネル製作(86.5㎡)、修景茶園実施設計
パンフレット配布、フォーラム開催
- ・H28年度 遺構再現パネル製作(9.6㎡)・設置(263.2㎡)
小学生・市民参加による茶樹の植樹
- ・H29年度 展望デッキ設置、発掘調査、フォーラム開催
- ・H30年度 園路整備、給排水設備等の設置、発掘調査
- ・R1年度 植栽
- ・R2年度 各種遺構再現整備、解説案内板設置
- ・R3年度 園路整備
- ・R4年度 解説板製作設置

築堤時の太閤堤の様子

整備された修景茶園の覆小屋

※「本質」による覆いする際に用いる丸太や竹、よしずなどを保管するところ。

② 自己評価

壮大な築堤状況が体感できる空間整備として、最新技術を用いた遺構再現パネルや展望デッキの整備などに加え、修景茶園の整備では市民とともに茶樹の植樹を行うなど、市民や来訪者が楽しみながら史跡への理解を深める機会の創出を行った。

併せて、パンフレットの配布やフォーラムの開催により、多くの市民や来訪者に本市の歴史や文化の歴史的価値、必要性等の普及を図ることができた。

外部有識者名	京都大学名誉教授 上原真人（考古学、宇治市文化財保護委員会委員長、宇治市文化的景観検討委員会副委員長）
外部評価実施日	令和4年11月25日

③ 有識者コメント

太閤堤跡の再現は、現在の堤をはさんで宇治川の流れとも対照できるので、実感をもって見学できる。案内板やデッキの設置も適切である。修景茶園は隣接する交流館「茶づな」のミュージアムとともに、お茶のまち宇治における茶業の実態を伝えることに成功している。しかし、コロナ禍でオープニングが遅れ、セレモニーなども予定より縮小せざるを得なかったのは残念である。

④ 今後の対応

史跡整備事業の実施により整備した公園を活用し、さらに市民をはじめとした来訪者が歴史の重層性や史跡への理解を深めることができる機会を創出していく。

また、同時に整備を行った交流ゾーンと合わせてイベントの開催等の機会を設け、本市の持つ歴史的な価値、文化財の必要性を普及していく。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～R4年
取り組み	C 重要文化的景観保存事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

重要文化的景観「宇治の文化的景観」の本質的価値を構成する重要な構成要素である家屋や茶園等について、文化的景観保存管理計画に基づいた修理を実施した。

- 重要文化的景観整備基本計画策定(H24年度)
- 被災した重要な構成要素(茶園)の復旧 : 9件(H25年度)
5件(H30年度)
- 重要な構成要素の修理・修景事業(H25年度～)



旧菊屋萬碧楼 R3.12

年度	実施件数	実施箇所
H25年度	1件	中村藤吉本店
H26年度	3件	中村藤吉本店、旧菊屋萬碧楼、上林春松家
H27年度	3件	中村藤吉本店、旧丸五百貨店、旧京都府茶業会議所
H28年度	1件	旧京都府茶業会議所
H29年度	3件	福文製茶場、旧丸五百貨店、岩井勘造商店
H30年度	1件	岩井勘造商店
R1年度	1件	中村藤吉本店
R2年度	3件	上林家住宅、福文製茶場、旧菊屋萬碧楼
R3年度	0件	
R4年度	3件	上林家住宅、茶房あじろ、寺川 家土蔵(旧茶工場)

② 自己評価

「宇治の文化的景観」の重要な構成要素は、自然、歴史、生活・生業の三つの観点から特定されており、いずれも宇治の歴史的風致と深い関わりがある。これら重要な構成要素の修理事業を実施し、さらに積極的な活用を図ることにより、賑わいのある沿道景観の魅力向上や伝統的な茶業の継承に寄与することができた。

中村藤吉本店では、大正期の写真をもとに、茶商のシンボルである拝見窓など、その当時の姿に復元した。

旧京都府茶業会議所では、老朽化した建物を耐震補強を含む大規模改修を行ったが、再利用可能な部材は可能な限り残し、建築当時の玄関を復活させるなど、建築当初の形に戻した。

外部有識者名	京都大学名誉教授 上原真人（考古学、宇治市文化財保護委員会委員長、宇治市文化的景観検討委員会副委員長）
外部評価実施日	令和4年11月25日

③ 有識者コメント

中村藤吉本店や旧京都府茶業会議所などは、建築当初の形に戻っただけでなく、活用面でも積極的な役割を果たしており、景観保存事業として有意義かつ今後に期待できる成果をもたらしている。沿道景観の魅力が増大した宇治橋通り商店街なども、これまで以上に活気に満ちており、維持向上計画のさらなる発展が期待されている。

④ 今後の対応

引き続き、歴史的な資産と一体となった魅力あふれる宇治のまちづくりを進める。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～R4年
歴史的風致	1 遊覧と参詣 宇治川河畔の歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 宇治の歴史・文化を分かりやすく情報発信する III 多様な歴史的遺産の保存・活用を推進する V 歴史のまちにふさわしい観光振興を図る		

① 歴史的風致の概要

宇治川の川船は薪や物資などの運搬によく利用されていたが、宇治遊覧の重要な要素でもあった。江戸期の名所図などには、船で宇治川を遊覧する様子や夏の蛍狩りに船を出して愛でる姿が描かれている。近年では蛍狩りはなくなったものの、宇治川の船遊覧は今も主に春から夏にかけて、多くの観光客が楽しんでいる。

また、宇治川とその河畔には、今も平安時代から変わらない山紫水明の眺めを愛でており、平等院を始めとする古社寺への詣でや、『源氏物語』などにゆかりのある古跡を巡りながらの遊覧、あるいは船で遊ぶ人々の風景を今も見ることができる。

② 維持向上の経緯と成果

宇治川の鵜飼は全国でも珍しい女性の鵜匠が活躍するなど、大正時代に再興されて以降、伝統的な取組みの継承が行われている。

平成30年度の鵜飼観覧船の乗船人数は、台風などの影響により営業日数が少なく、例年より減少したが、女性鵜匠の活躍や全国で初めての鵜の人工孵化の成功など積極的にPRを実施したことにより、1日あたりの乗船人数は高水準を維持したが、令和元年度は台風などの影響により、営業日数も少なく、1日あたりの乗船人数も減少した。（令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止）

追い綱を使わない「放ち鵜飼」の実施に向けた検証を進め、R4年度はツアーを開始し、新たな集客の取組を行った。

そのほかにも、宇治川河畔では歴史のまちにふさわしい新たな観光資源の模索を進めるなかで、平成30年度に宇治川をゴム製のカヌーで下るイベント（宇治川Eボート体験）が実施されるなど、民間事業者による新たな取組が行われた。

また、宇治川東岸にある国宝宇治上神社本殿および拝殿では、屋根葺替修理を実施し、価値の継承を図るとともに、周辺地域の浸水対策や散策路のフットライト整備、歩道の景観舗装を実施し、興聖寺や宇治発電所などを活用したライトアップイベントを実施するなど、歴史・文化資源や歴史的まちなみを活用した回遊性の向上につながった。

宇治川の鵜飼

	乗船人数	1日平均
H24	6,300	76
H25	6,700	80
H26	6,970	91
H27	7,060	114
H28	6,920	88
H29	6,390	86
H30	4,325	89
R1	2,635	68
R2	—	—
R3	420	22
R4	1,210	38

宇治川の鵜飼観覧乗船人数の推移

③ 自己評価

宇治川河畔での遊覧に関する取組みやイベントを継続して実施することで、夏の風物詩として定着するとともに、賑わいの創出にも繋がっている。

また、文化財の修理により、価値の継承が図られることで、歴史的景観をより魅力的に伝えられるとともに、併せて周辺地域での浸水対策や歩行空間の整備を行うことで、古社寺を詣でるための回遊性の向上に寄与している。

④ 今後の対応

歴史的な沿道景観との調和や道路景観の改善のため中宇治地域の無電柱化を実施していく。宇治川Eボート体験など、民間事業者の新たな取組みへの協力を引き続き実施していく。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～R4年
歴史的風致	2 茶どころ宇治の歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 宇治の歴史・文化を分かりやすく情報発信する II 伝統文化・伝統行事の継承と振興を図る IV 宇治らしい景観の保全・修景を図る		

① 歴史的風致の概要

【覆下茶園の歴史的風致】

宇治の茶園の多くは、新緑の芽が息吹き始めた4月頃、茶園に覆いが施され、茶園全体を隠してしまう「覆下」と呼ばれる栽培方法であり、本市固有の茶園景観ができあがる。茶葉が十分に育った頃には、手摘みをするお茶摘みさんの姿をあちこちで見ることができる。

【お茶屋さんの歴史的風致】

宇治では、茶を扱うお店を親しみを込めて「お茶屋さん」と呼ぶことが多く、平等院表参道や宇治橋通り、県通り、あさぎり通りには多くの「お茶屋さん」が店を広げており、その景観は、宇治茶師の技と伝統を継承してきた、茶どころ宇治ならではの風情を醸し出している。

② 維持向上の経緯と成果

●宇治茶園支援事業

宇治茶の伝統製法である「本簀」による生産の支援や、茶摘み時期に欠かせない「お茶摘みさん」の確保のための支援を行うことで、本簀栽培の保存や技術継承及び手摘み茶の推進につながった。

●重要文化的景観保存事業

「宇治の文化的景観」の重要な構成要素は、自然、歴史、生活・生業の三つの観点から特定されており、いずれも宇治の歴史的風致と深い関わりがある。これら重要な構成要素である建造物や茶園等について、修理、復旧の支援を実施し、積極的な活用を図ることにより、賑わいのある沿道景観の魅力向上や伝統的な茶業の継承に寄与することができた。

●建物修景助成事業

歴史の重層性や伝統的な茶業を感じさせる家屋や伝統的な建造物、近代期の商業店舗に対して修景助成を行うことにより、宇治らしい沿道景観の保全と形成を促進し、賑わいと風情あふれるまちづくりが推進された。

特に、宇治橋通りでは、無電柱化や建物修景助成によるまちなみの変化や、シンポジウム等の実施により、地域住民や事業者の景観に対する意識の醸成につながっている。その結果、地域住民等の自主的な取り組みが進み、沿道景観の改善や賑わいの創出につながっている。

「本簀」の覆下茶園

宇治橋通りにある建築物の修景
H28.11

③ 自己評価

茶業に関する家屋や建造物等の修理・修景により伝統的な茶業の継承や歴史的な沿道景観の保全と形成が図られ、賑わいと風情あふれるまちづくりの創出につながっている。

④ 今後の対応

宇治茶の伝統製法の継承や高品質茶の生産の支援を行うとともに、お茶と宇治のまち歴史公園において、宇治茶の魅力発信を行い、茶業の更なる振興に取り組んでいく。

重要文化的景観に選定された宇治の文化的景観を守り、市民の誇りにつなげていくため、文化的景観のPRに努めるとともに、保護に必要な修景整備等を進める。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～R4年
歴史的風致	3 宇治に伝わる祭礼の歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ 伝統文化・伝統行事の継承と振興を図る Ⅳ 宇治らしい景観の保全・修景を図る		

① 歴史的風致の概要

【大幣神事の歴史的風致】

大幣神事は、「大幣」と呼ばれる大きな御幣を、古式ゆかしい行列とともに三角形街区を巡行させて疫神を集め、宇治川に流して祓うものである。巡行する様子は、宇治で数百年にわたって培われ積み重なってきた歴史の厚みが、まちなかに放散されるような風情と賑いを伝えている。

【離宮祭の歴史的風致（宇治神社と宇治上神社の祭礼）】

宇治に継承される祭礼の最も古いものとして、離宮社であった宇治神社と宇治上神社の神幸祭と還幸祭がある。離宮祭は、歴史の激動に翻弄されてきたが、祭礼を担ってきた地域の人々のまとりは継承され、宇治地区・槇島地区の氏神の祭りに姿を変えながら、今も守られている。

【白川白山神社の歴史的風致】

宇治の中心部から南東に向かってある白川には、平安時代に創建された金色院で行われていた神事が、地域の人々によって伝統的な祭礼として守り伝えられており、静寂な谷里景観と相まって、趣のある歴史的な風情を今も見ることができる。

② 維持向上の経緯と成果

●大幣神事の保全・継承

大幣神事は地域住民の有志によって構成される「大幣座」により毎年6月に実施されている。平成24年に宇治市無形民俗文化財として指定を行ったことにより、運営に対する補助の拡充を行い、財政面での健全化を図ることができた。

また、近年は世代交代による若者の参加や後継者育成が図られるなど、人材面でも文化財の保全・継承が進められている。さらに、無電柱化やまちなみ整備により、祭の景観が向上した。

●白川区地区まちづくり計画の認定

白川では、歴史文化遺産と景観を守り、伝統行事を未来に伝えることなどを目的として、平成19年に白川区まちづくり協議会が設立され、翌年に市で協議会の認定を行った。その後、まちづくり専門家の派遣や活動費助成などの支援を行い、平成28年に白川区地区まちづくり計画が策定された。

計画の策定により、伝統行事を記録に残し、次の世代に引き継いでいく取組が行われている。

白川にある白山神社の祭礼は、春祭り、虫干し祭り、秋祭り、御火焚祭りの年4回行われ、秋祭りの前夜に行われる「百味の御食」は、白山神社に供えられる神饌のことであり、今も変わらず伝えられている。



大幣神事の様子



百味の御食

③ 自己評価

文化財への補助やまちづくり協議会への支援を通じて、伝統祭礼の保存や継承を図ることができた。

④ 今後の対応

引き続き、文化財の保全・継承を図るため、大幣神事への補助を行っていく。

白川では、まちづくり協議会の計画に基づく取組みに支援を行うことで、地区のコミュニティ形成を図るとともに、文化や行事の自発的な保存や継承を促していく。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～R4年																								
① 庁内組織の体制・変化 計画の推進にあたり、市民の声を取り入れるとともに、関係課で組織する「歴史まちづくり推進調整会議」で調整を図っている。 平成26年度からは、組織改編により文化財保護と景観に関する事務を都市整備部内の「歴史まちづくり推進課」で実施することとなった。同一の部署において事務を実施することで、法律や補助制度の円滑な情報共有が可能となり、文化財保護行政と景観行政が一体となった歴史まちづくりの推進を図ることができた。 平成30年度には、空き家対策において、関係する12室・課の所属長を担当課長とする組織体制を確立し、「宇治市空き家等対策計画」を策定した。空き町家の活用については、空き家対策の取組と連携を図りながら、所有者等の調査を進めるなかで、どのような利活用が可能であるか検討を行っていく。		歴史まちづくり推進調整会議 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">部 署</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>政策企画部</td><td>政策戦略課</td></tr> <tr> <td rowspan="3">産業観光部</td><td>農林茶業課</td></tr> <tr> <td>観光振興課</td></tr> <tr> <td>文化スポーツ課</td></tr> <tr> <td rowspan="2">教育部</td><td>学校教育課</td></tr> <tr> <td>生涯学習課</td></tr> <tr> <td colspan="2">建設総括室</td></tr> <tr> <td rowspan="4">建設部</td><td>建設総務課</td></tr> <tr> <td>道路建設課</td></tr> <tr> <td>維持課</td></tr> <tr> <td>治水対策課</td></tr> <tr> <td rowspan="5">都市整備部</td><td>公園緑地課</td></tr> <tr> <td>都市計画課</td></tr> <tr> <td>建築指導課</td></tr> <tr> <td>交通政策課</td></tr> <tr> <td>歴史まちづくり推進課（事務局）</td></tr> </tbody> </table>		部 署		政策企画部	政策戦略課	産業観光部	農林茶業課	観光振興課	文化スポーツ課	教育部	学校教育課	生涯学習課	建設総括室		建設部	建設総務課	道路建設課	維持課	治水対策課	都市整備部	公園緑地課	都市計画課	建築指導課	交通政策課	歴史まちづくり推進課（事務局）
部 署																											
政策企画部	政策戦略課																										
産業観光部	農林茶業課																										
	観光振興課																										
	文化スポーツ課																										
教育部	学校教育課																										
	生涯学習課																										
建設総括室																											
建設部	建設総務課																										
	道路建設課																										
	維持課																										
	治水対策課																										
都市整備部	公園緑地課																										
	都市計画課																										
	建築指導課																										
	交通政策課																										
	歴史まちづくり推進課（事務局）																										
② 庁内の意見・評価 ① 歴史まちづくりに関する取組みを推進するため、必要に応じて「歴史まちづくり推進調整会議」を開催し、情報共有を図ることができた。 ② 「宇治市教育委員会事務の補助執行に関する規則」（平成21年制定）により、教育委員会の権限に属する文化財に関する事務を市長部局の職員に補助執行させることとされており、業務の円滑化が図られている。		 歴史的風致維持向上協議会 （オンライン開催）の様子 （R3年度）																									

市町村名

宇治市

評価対象年度

H24～R4年

① 住民意見

『総合計画策定のためのアンケート調査』から

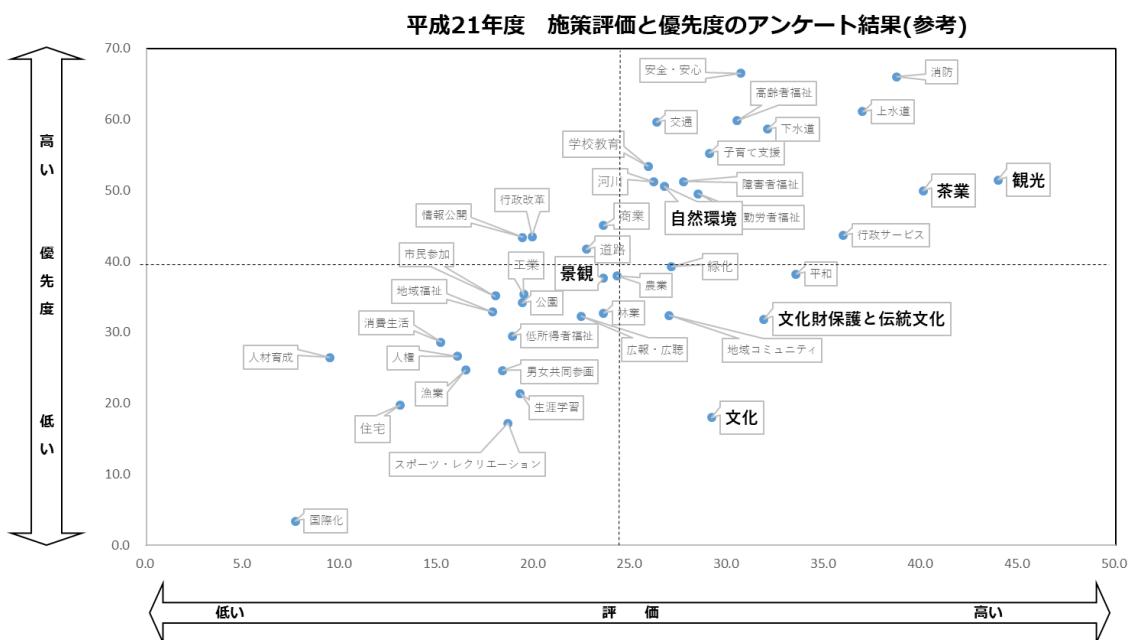
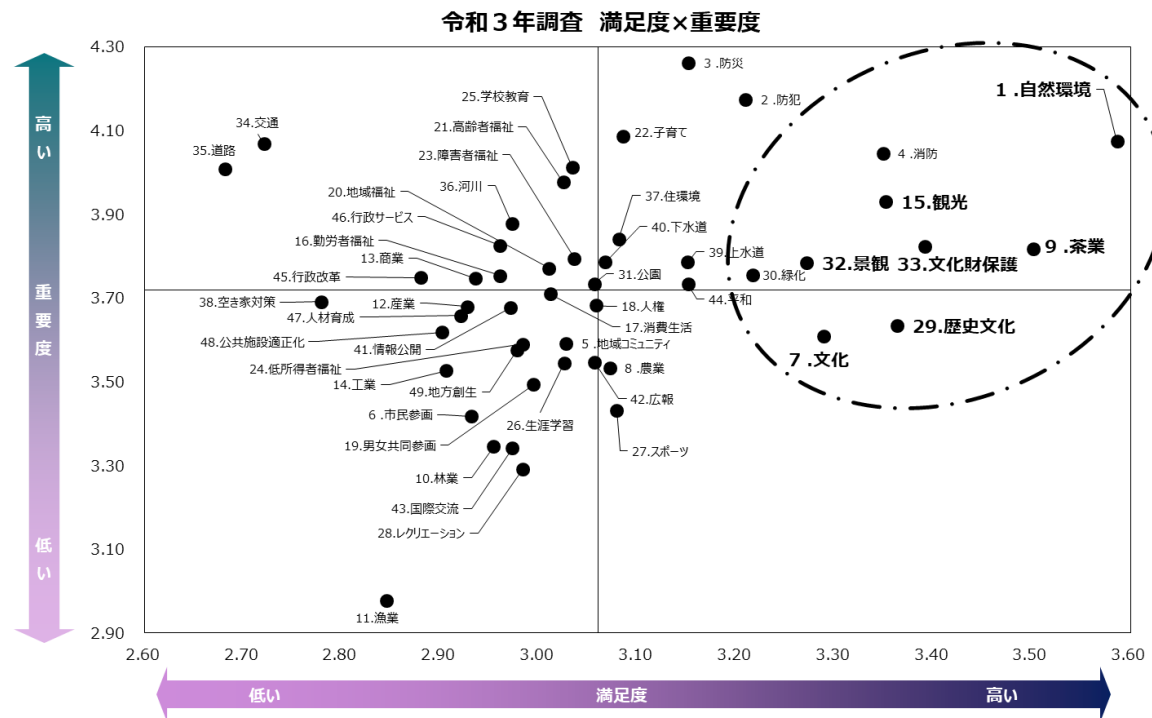
調査実施期間：令和 3年4月～5月（総合計画策定のためのアンケート調査）

アンケートの集計方法：令和3年度 満足度について、出来ているとできていない項目をそれぞれ3つ選択する。

平成21年度 各項目について、5段階評価する。

備考：各グラフの十字線は、それぞれの中央値を表す。

平成21年度調査の評価を満足度、優先度を重要度に読み替える。



出典：『総合計画策定のためのアンケート調査』（一部加筆修正）

歴史的風致に関連する項目は、1.自然環境、7.文化、9.茶業、15.観光、29.歴史文化、32.景観、33.文化財保護の7つが該当する。そのうち令和3年度調査では5つの項目が、重要度が高いかつ満足度が高い領域に位置している。残りの2項目は、重要度が低いかつ満足度が高い領域に位置している。満足度に関しては、7項目ともに高い位置にあり、重要度に関しては、低いものについても高い領域に近い位置になっている。これらのことから、市民に対して歴史的風致の重要

性の周知ができており、その施策についても高く評価されていると考える。

さらに、令和3年度調査をベースに平成21年度調査結果を比較し、住民意識の変化を概観する。各調査の調査項目はリンクしているが、集計方法の違いから数値に相違がある。しかし、各調査内全体の評価については、比較することが可能なため評価領域に着目する。

平成21年度調査時に比べ、茶業、観光、歴史文化の満足度(評価)について高くなっており、自然環境、景観、文化財保護、文化については満足度(評価)、重要度(優先度)ともに高くなっている。特に、自然景観、景観の評価は極端に上がっていることから、歴史的風致に関する施策が一定の成果をあげたと考える。一定の成果を挙げた要因には、部局横断的に事業の実施体制が構築できたことによる。ただし、34.交通、35.道路、38.空き家対策について重要度が高く満足度が引くため、満足度が高くなるよう努めていく必要がある。

今後も市民からの満足度(評価)、重要度(優先度)ともに高く位置付けられるよう、宇治の歴史的風致について重要性を周知し、歴史的風致に関する事項を取組むことで、更なる歴史的風致の維持向上に努めていく必要がある。

② 協議会におけるコメント

【歴史的風致の認知に関すること】

史跡整備について、史跡宇治川太閤堤跡の調査と整備は、歴史的風致維持向上計画による側面が大きかった。寸分違わない遺構の再現を目指し、新たな技術も投入して長期間かけて行われており、史跡整備として、とても質が高い。ただ形だけを再現したのではなく、どうして宇治で茶園が広がったのか、栽培が盛んになってきたか、ということも視覚的に理解できる仕掛けが施されている。第1期計画で史跡整備事業ができたので、第2期計画でいかにお茶と宇治のまち歴史公園を使って「宇治がお茶のまち」ということを情報発信していくか、強みを生かしてさらに茶園を使った活動をしていくかということが課題である。

【宇治茶や地域の伝統文化の継承に関すること】

計画策定時、お茶を使ったスイーツやお土産物、お茶メインの料理メニューはあまり無かったような気がする。本格的な宇治茶というのはベースにあるが、まずお茶というものの事業の多様性を図っていく際に、スイーツ食品の開発の余地があり、ここ5年、10年経って多様になったと大きなはっきりした形としてある。事業としてはあげられていないが、波及効果という形で間違いなくある。重要文化的景観の助成事業もあって、昔の形に修景される、あるいはそこでお茶を味わってもらうという取組みが、事業があることによって、相乗効果で盛り上がっている。

【歴史・文化遺産に関すること】

核となる歴史的な遺産と文化財、まちなみも着々と調査が進められており、文化財指定による保存の取組みというの進められている。しかし、宇治市には未調査の歴史的資源、文化資源が数多くあるため、引き続き、調査、指定等の取組みが必要。

【景観に関すること】

景観の改善策として、無電柱化事業などで歴史的景観を作るということを打ち出しており、整備についてかなり進展した。また、JRの複線化に伴う架橋など、宇治川の景観と調和させる対応を取れたことは評価できる。

【観光振興に関すること】

歴史的風致維持の取組みによって、観光客は、ずいぶんと満足しており、魅力あるまちになってきたと思うが、市民生活にどのように波及しているか。数値として反映されにくい部分ではある。宇治学の推進という次世代の子どもたちに宇治の魅力を伝えるというものにも着手されているものの、まだまだ継続して育てていかなければいけない。次世代の子どもたちが宇治に住み続けたいという気持ちを醸成していく取組みを、第2期計画の中でも意識して取組んでいく必要がある。歴史的風致の維持向上が市民生活をいかに向上させるかというところは一つキーワードにしていけないといけない。

【その他】

宇治学は、通常の授業では学べない、特別な体験ができており、宇治市の子どもにとって、将来的にもすごい財産になると思われる。子どもが地元の何気ない当たり前の景色や建造物、祭礼などの魅力を改めて知るとは、将来的に宇治に生まれ、育ち、住んでよかったというように宇治に住んでいることへの誇りに繋がっていく。中学生では、宇治市でこんな取組みがあればいいという意見や、歴史を守っていくにはこういう取組みが必要だという意見を子どもながらの目線で、プレゼンするという広がりが出ており、宇治学によって子どもと一緒に宇治の魅力について考える機会を広げていきたい。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～R4年
① 全体の課題 【歴史的風致の認知に関すること】 宇治茶や歴史の情報発信は、市政モニターアンケート調査で「不十分」との意見が半数を超え、観光動向調査でも宇治観光に行かない理由は「情報不足」が多く、お茶と宇治のまち歴史公園を活かした効果的な情報発信を図っていくことが課題である。 【宇治茶や地域の伝統文化の継承に関すること】 茶園面積の減少による茶園景観の減少、寒冷紗による生産技術が確立される中「本質」の技術伝承や高齢化社会が進む中、伝統行事の担い手の高齢化や参加者の減少が課題である。 【歴史・文化遺産に関すること】 古民家や宇治の個性を表す建造物の調査や検証が不足していることや居住者の減少や高齢化等により、維持管理が困難となる歴史的建造物が増加しており、今後も増加することが想定されるため、その保存・活用が課題である。 【景観に関すること】 歴史的な建造物の建替や駐車場化によるまちなみの連続性の喪失や、電柱や架空線による景観阻害が課題である。 【観光振興に関すること】 観光客が歩いて楽しめるような観光交通に対する有効な施策の検討や複数設置されている観光案内標識による景観阻害が課題である。			
② 今後の対応 【歴史的風致の認知に関すること】 現行の情報発信に関する取り組みを継続するとともに、お茶と宇治のまち歴史公園において、市民や観光客にミュージアムや体験プログラムを通して、宇治の歴史・文化やお茶の魅力について、わかりやすい情報発信を行い、周遊観光の促進につなげる。 【宇治茶や地域の伝統文化の継承に関すること】 茶業振興に対する支援を継続して行い、さらに高齢化社会が進み、困難な状況にある伝統文化・伝統技術の保存・継承のため、「本質」の技術の伝承など次世代の担い手の育成の機会の充実を図る。 【歴史・文化遺産に関すること】 伝統的木造家屋の活用は、賑わいと風情あるまちなみの継承につながることから、市で進めている空き家対策などとともに、どのような建造物を保存、活用するかなど、取組の方向性と効果的な支援策の検討を行う。また、新たな視点による歴史・文化遺産の魅力発掘など未指定文化財や指定文化財等に対しても保存・活用の方向性と効果的な施策の検討を行う。 【景観に関すること】 歴史的なまちなみを保全するため、地域住民の景観に対する意識を高め、良好な沿道景観の形成に向けた手法の検討を行う。 【観光振興に関すること】 歴史のまちにふさわしい観光振興を図るため、歴史・文化遺産を生かした新たな観光コンテンツの発見や魅力の再発信により、まち全体を楽しむ参加体験型の観光振興を図る。 さらに、まち全体の観光振興を促すため、周遊性の向上を進めるとともに、快適に観光ができる環境の整備を行う。			